

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
YIC情報ビジネス専門学校		平成1年8月24日		校長 河津 道正		〒 754-0021 (住所) 山口県山口市小郡黄金町2番24号 (電話) 083-976-8354			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人YIC学院		平成18年9月26日		理事長 井本 浩二		〒 754-0021 (住所) 山口県山口市小郡黄金町2番24号 (電話) 083-976-8111			
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度	
工業	工業専門課程		情報デザイン科		令和 4(2022)年度	-		令和 3(2021)年度	
学科の目的		AI活用、データ分析、デザインといった専門的スキルに加え、時代の変化に柔軟に対応するためのヒューマンスキルを醸成し、これからの時代を切り拓く人材を育成します。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		色彩検定、PhotoShopクリエイター能力認定試験、Illustratorクリエイター能力認定試験、WEBデザイナー検定、Webクリエイター能力認定試験、生成AIバースポート、SNSマーケティング検定、ビジネス著作権検定、ITバースポート、情報活用検定、Accessビジネスデータベース認定試験、Excel表計算処理技能認定試験							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
			62 単位	11 単位	51 単位	単位	単位	単位	
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率			
60 人	46 人		0 人		0 %	0 %			
就職等の状況	■卒業者数 (C)			15	人	令和7年度が完成年度であるため、卒業生なし			
	■就職希望者数 (D)			15	人				
	■就職者数 (E)			13	人				
	■地元就職者数 (F)			10	人				
	■就職率 (E/D)			87	%				
	■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)			77	%				
	■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)			87	%				
	■進学者数			0	人				
	■その他								
	(令和 7 年度卒業者に関する令和 7 年 5 月 1 日時点の情報)								
■主な就職先、業界等									
(令和7年度卒業生)									
株式会社赤坂印刷、株式会社 free mova、株式会社レッカスグルーヴ、有限会社米本工業、社会福祉法人 清和園、学校法人YIC学院 YIC情報ビジネス専門学校									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載			無					
	評価団体:			受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL			
当該学科のホームページURL	https://www.yic.ac.jp/ib/course/design/								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)								
	総授業時数					単位時間			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					単位時間			
	うち企業等と連携した演習の授業時数					単位時間			
	うち必修授業時数					単位時間			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					単位時間			
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					単位時間			
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					単位時間			
	(B: 単位数による算定)								
	総単位数					62 単位			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数					単位			
	うち企業等と連携した演習の単位数					8 単位			
	うち必修単位数					62 単位			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数					単位			
	うち企業等と連携した必修の演習の単位数					8 単位			
	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)					単位			

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	0 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	0 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	1 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	1 人
計		2 人
上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数		0 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
・学科の専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について意見交換を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とした委員会(教育課程編成委員会)を置く。
・審議事項は次の事項とする:カリキュラムの企画・運営・評価、各授業科目の内容・方法の充実及び改善、教科書・教材の選定、教員研修。
・委員会には学校関係者のほか、専攻分野に関する企業等の役員または有識者を1人以上加えることとし、企業等との連携を密にする。(以上 学校法人YIC学院 教育課程編成委員会規則 より抜粋)

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

・「学校法人YIC学院は、設置する専門学校各校の各学科に、専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とした委員会を置く。」(学校法人 YIC学院 教育課程編成委員会規程第2条より)
・カリキュラムは、教育課程編成委員会の意見等を参考に、学内教育課程編成委員会において編成する。教職員会議での検討を経た後、理事会の承認を受け最終決定。
・授業内容・方法の改善・工夫等については、教育課程編成委員会の意見を参考に、可及的速やかに対応する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
本廣 敏孝	一般社団法人 山口県情報産業協会 専務理事・事務局長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
佐鹿 健治	大村印刷株式会社 ODI事業部 部長代理	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
村田 良輔	株式会社スワークス 代表取締役	令和6年4月1日～令和8年3月31日(3年)	③
河津 道正	校長		—
三船 龍	事務長		—
豊田 菜摘	教務課長		—
赤木 康二	教務課長補佐・学科長		—
辻村 忠幸	教務係長		—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年間2回(6月～8月、2月～3月)

(開催日時(実績))

令和7年度第1回 令和7年9月25日 11:00～12:00

令和7年度第2回 令和8年3月19日 13:00～14:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

生成AIを活用した授業をする。色彩3級ではなく2級を目指す。デザインの勉強も重要だが、ターゲットや目的を定めて、コンセプトを元にデザインできるようにする。AIの検定取得。マーケティング能力およびプレゼンテーション能力の強化。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ・山口県内の、学生の住居近くの施設を選定している。
- ・学生の興味分野や就職希望分野（進路）も踏まえ、実習指導者との連携がとれる施設を選定している。
- ・指導者の監督の下、見学・実習を行い職業理解に努める。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ・実習、演習においては企業間と「講師派遣契約書」、科目について「覚書」を交わしている。
- ・実習・演習の方法・成績評価の方法について実習指導者・教員・学生間で共有している。
- ・実習期間中は教員が電話あるいは訪問して状況確認を行い、問題があれば対応について協議する。実習指導者が記入する成績評価表と、実習終了後に行う報告会での報告内容を踏まえ、教員が最終成績評価・単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な3科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
PBL I	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	カードゲーム企画制作会社と連携し、カードゲームの企画を立案し、プレゼンテーションを実施する。企画内容が良ければ、会社のゲーム企画として採用され制作販売される。	タンサン株式会社
PBL II	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	中小企業の業務についてヒアリングをおこない課題や問題ごとを掘り起こし、解決するための新しいアイデア発想をする。グループワークを通じたディスカッションができるようにする。	山口県中小企業家同友会
PBL III	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	中小企業の業務についてヒアリングをおこない課題や問題ごとを掘り起こし、解決するための新しいアイデア発想をする。グループワークを通じたディスカッションができるようにする。	山口県中小企業家同友会

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

(教員の研修等の基本方針)

- ・YICグループ教職員研修規程に基づき計画的に研修を実施している。
- ・常に変化する業界動向に合わせて、技術・知識の確認をするために、企業企画・イベントの参加を推奨している。
- ・資格取得のための研修を推奨している。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	情報セキュリティ&Excel・Word(中級)研修	連携企業等:	学校法人YIC学院
期間:	令和6年12月26日(木)13:30~16:30	対象:	教員
内容	情報セキュリティに関する情報提供と簡単なグループワークを通して、日常業務の中で気を付けるポイントの周知徹底		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	シラバス・コマシラバスについて	連携企業等:	学校法人YIC学院
期間:	令和6年12月25日(水)9:30~16:30	対象:	教員
内容	目的に沿ったシラバス・コマシラバスの計画を作成することが目的の講座		

研修名:	最新ハラスメント防止研修～言動に対する理解と職場づくり～	連携企業等:	学校法人YIC学院
期間:	令和7年8月19日(火)9:30~12:30	対象:	教員
内容	コンプライアンス遵守に留らず、チームと組織全体の生産性向上の効果を期待		

研修名:	学生 OC スタッフ育成研修	連携企業等:	学校法人YIC学院
期間:	令和7年8月19日(火)13:30~15:30	対象:	教員
内容	OCの重要性を再認識するとともに、学生 OC スタッフの活躍が参加者の満足度を大きく左右することの共有		

(3)研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	はじめてのSNSマーケティングの教科書	連携企業等: Udemy
期間:	令和8年9月25日(金)13:30~16:00	対象: 学生 & 教員
内容	SNSマーケティング初心者の方、これから挑戦したい方、今は自己流でやっているという方が、SNS運用のための基礎知識と実務知識を短時間で習得できる	
研修名:	Webマーケティングの高度化・効率化を実現する生成AI活用術	連携企業等: Udemy
期間:	令和8年9月28日(火)9:30~12:30	対象: 学生 & 教員
内容	生成AIのGemini／NotebookLMを使い、マーケティング業務に必要な「分析」「文章作成」「リサーチ」を高度化 & 効率化する方法を学びます。	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	脳科学 × 心理学で学ぶ「心のセルフマネジメント」 自分の心を整え、人とのよりよい関係を育てる	連携企業等: 学校法人YIC学院
期間:	令和8年8月21日(金)9:30~12:30	対象: 教員
内容	脳科学と心理学の視点から、感情をコントロールして自己を調べ、円滑な人間関係を構築する方法を学びます。	
研修名:	情報セキュリティ & Googleドライブ活用 研修	連携企業等: 学校法人YIC学院
期間:	令和8年8月21日(金)13:30~16:30	対象: 教員
内容	ネットや生成AIに潜むリスクと情報漏洩対策を理解し、事故を防ぐ日頃の心がけからGoogleドライブでの安全なファイル共有操作までを修得します。	
研修名:	0	連携企業等: 0
期間:	0	対象: 0
内容	0	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針
・学校関係者評価委員会において、本校が行う自己点検評価の結果と根拠を示し、とくに当該年度の重点項目を中心に意見等をまとめ報告書を作成していただく。
・学校関係者評価委員会からの報告書に基づいて本校の自己点検評価を見直し、次年度の改善計画における重点項目を決定する。
これらについて年報・ホームページ等で公表する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標
(2)学校運営	7 管理運営
(3)教育活動	2 教育の内容
(4)学修成果	4 教育目標の達成度と教育効果
(5)学生支援	5 学生支援
(6)教育環境	3 教育の実施体制
(7)学生の受入れ募集	5 学生支援
(8)財務	8 財務
(9)法令等の遵守	7 管理運営
(10)社会貢献・地域貢献	6 社会的活動
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況
・本校で実施した自己点検評価・改善計画を学校関係者評価委員会に提出し、意見・協議結果をもとに学校機能評価報告をまとめ、年報・ホームページで公開する。改善計画にもとづき学校運営や教育の改善を計画的に行う。
またシラバスがテキストの目次に基づくものが多く、具体性がない。
今後、シラバス・コマシラバスの整備をインストラクショナル・デザインを取り入れて改善していくことに決定した。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
福本 百合江	情報工学科 在校生 保護者	令和6(2024)年4月1日～令和8(2026)年3月31日(2年)	保護者代表
高村 奈生人	ビジネス系学科 卒業生 株式会社三知 山口支店	令7(2025)年4月1日～令和9(2027)年3月31日(2年)	卒業生
阪上 誠	株式会社テクノプロ テクノプロ・デザイン社 新卒採用部 部長	令7(2025)年4月1日～令和9(2027)年3月31日(2年)	企業関係者 (情報工学科)
阿部 誉久	山口商工会議所 広域ビジネスサポートセンター長	令7(2025)年4月1日～令和9(2027)年3月31日(2年)	職能団体 (情報ビジネス科)
臼渕 厚史	株式会社 山口グランドホテル 代表取締役社長	令7(2025)年4月1日～令和9(2027)年3月31日(2年)	企業関係者 (ホテルブライダル科)
兼重 顕治	医療法人 協愛会 阿知須共立病院 事務部経営企画室人材開発グループリーダー	令7(2025)年4月1日～令和9(2027)年3月31日(2年)	企業関係者 (医療事務学科)
中野 園子	山口県獣医師会の会員獣医師 なかの動物病院 副院長	令7(2025)年4月1日～令和9(2027)年3月31日(2年)	企業関係者 (ペット総合学科)

井ノ上 隆志	学校法人 鴻城義塾 山口県鴻城高等学校 進路指導部	令和6(2024)年4月1日～令和8(2026)年3月31日(2年)	高校関係者
※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。 (例)企業等委員、PTA、卒業生等			
(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 (ホームページ) URL: https://www.yic.ac.jp/ib/disclosure/ 公表時期: 令和8年7月31日			

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

・「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の趣旨に則り、原則として、ガイドラインが推奨する内容(提供する情報の項目例)全てについて、ホームページ上にて情報提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2)各学科等の教育	各学科(コース)等の教育
(3)教職員	教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生生活支援
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	学校の評価
(10)国際連携の状況	国際連携の状況
(11)その他	その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)

URL: <https://www.yic.ac.jp/ib/disclosure/>

公表時期: 令和8年7月31日

授業科目等の概要

工業専門課程メディアデザイン科																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ビジネスマナーⅠ	社会人として求められる基本的なビジネスマナーを実践できる。	1前	30	1	○			○			○	
2	○			ビジネスマナーⅡ	社会人として模範的なビジネスマナーが実践できる。	1後	30	1	○			○			○	
3	○			ウェルビーイング	ウェルビーイングとは身体的、精神的に良好な状態を表す。デジタル化に伴う人材がデジタルデバイスの過度な利用により、心身の健康に与える影響を考慮するデジタルウェルビーイング、充実した生活を送るうえで欠かせない概念を学習する。	1前	30	1	○			○			○	
4	○			デジタルシティズンシップ	サイバーリスクを回避し、デジタル社会において安全かつ有益な活動を行うために、情報リテラシー、コミュニケーションリテラシー、セキュリティリテラシー、倫理観、社会参加について学習する。	1後	30	1	○			○			○	
5	○			思考法	ソーシャルスキルを「社会生活に必要な、対人関係を円滑に築き維持するための技術（コツ）」と捉え、それを身に付ける演習を通じて、ヒューマンスキルの向上をはかる。／新たなアイデアを生み出すことの必要性を理解し、単なるひらめきで終わらずに「発想したものを実社会に落とし込む」ところまでをスキルとして体得する。	1前	30	1	○			○			○	
6	○			生成AI活用	生成AIを有効に学習等に活用するために、AIの種類ごとによる特性を理解し、生成したコンテンツや文書を倫理観をもって取り扱い、生成データの真偽について判断し、コンテンツを正しく取扱うことができる。	1前	30	1	○			○			○	
7	○			プレゼンテーション	新たなアイデアを生み出すことのみならず、それを他者に正しく・分かりやすく伝え、説得する・共感を得る能力が求められるようになっている社会状況を鑑み、PBL等も含めた今後の様々な場面で活用できるプレゼンテーションスキルの向上をはかる。	1前	30	1		○		○			○	
8	○			アントレプレナーシップ入門	起業家精神に関する基礎知識を幅広く学習し、ビジネスを始めるための基礎知識や、アイデアのを見つけ方、ビジネスプランの考案を学習し、アントレプレナーシップ演習で行うビジネスアイデアコンテスト応募につなげる。	1後	30	1		○		○			○	○
9	○			マーケティング入門	マーケティングの基本とデータ分析技法について学習する。地域経済分析システム「RESAS」の活用と地域の小売り店舗でのフィールドワークでの実例分析をおこなう。	1前	30	1	○			○			○	

10	○		デジタルマーケティング演習	効果的なマーケティング戦略を立案・実行できる能力を養う。また、データ分析やソーシャルメディアの活用、広告運用の最適化など、実際のビジネスシナリオで即戦力となるスキルを身につけることを目指す。	1 後	60	2		○		○		○			
11	○		地域経済学	地域経済の仕組みを理解し、活性化（まちづくり）の施策を考える。	1 後	30	1	○			○				○	
12		○	文書処理実習	ビジネスで通用する文書作成スキルとPCの基本操作を修得し、資格取得を目指す実習授業。	1 前	30	1		○		○		○			
13		○	情報処理概論Ⅰ	情報社会の基礎知識を習得し、ネットワークやセキュリティ等の基本概念を学ぶ。IT人材として求められる広範なIT知識を身につけることを目的とする。情報検定の情報活用試験の合格を目指し、実践的な知識の習得を図る。	1 前	60	2	○			○		○			
14		○	情報処理概論Ⅱ	情報社会の基礎知識を習得し、ネットワークやセキュリティ等の基本概念を学ぶ。IT人材として求められる広範なIT知識を身につけることを目的とする。情報検定の情報活用試験の合格を目指し、実践的な知識の習得を図る。	1 後	60	2	○			○		○			
15		○	表計算実習Ⅰ	表計算ソフトの基本操作、関数、データベース、抽出、グラフ作成を学び基本的な操作を習得した後は複数の関数を組み合わせた応用技術を習得して実務に役立つ能力を身につける。	1 前	60	2		○		○				○	
16		○	表計算実習Ⅱ	表計算ソフトの基本操作、関数、データベース、抽出、グラフ作成を学び基本的な操作を習得した後は複数の関数を組み合わせた応用技術を習得して実務に役立つ能力を身につける。	1 後	60	2		○		○				○	
17		○	データベース演習Ⅰ	中小規模事業者で使われるGUIのデータベースであるAccessの基礎的な使い方を習得してデータベース構築のための基礎知識を学習する	1 前	60	2		○		○				○	
18		○	データベース演習Ⅱ	中小規模事業者で使われるGUIのデータベースであるAccessの基礎的な使い方を習得してデータベース構築のための基礎知識を学習する	1 後	60	2		○		○				○	
19		○	ノーコード実習Ⅰ	業務イメージを理解するためにkintoneを使って業務の流れを学習する。簡単に業務アプリを作成ができる各種ツールの使い方を学習し、各種テンプレートを活用しノーコードでの開発を組み立てができる	1 前	60	2		○		○		○			
20		○	ノーコード実習Ⅱ	kintoneの基本操作を習得前提で、業務に関するフローや使用される帳票類を分析し、kintoneでの画面設計や、承認プロセスの設計をアプリ構築を進めながら並行して進める。主として学生に身近な学校業務プロセスをkintoneを使って構築していく。	1 後	30	1		○		○		○			
21		○	データ統合演習	PowerQueryでデータ抽出、加工変換、読み込みを行い。バラバラな形式のデータを分析に使えるきれいな形に整える自動化スキルを身につける。	1 後	60	2		○		○		○			

22		○	色彩概論 I	色の基本的な特性等を理解し、配色を効果的にすることで、心理的、生理的影響の知識を身につけて配色調和のバランスをとることができる。	1 後	60	2	○			○			○	
23		○	Web基礎	HTMLタグ、CSSの基礎を学習する。VisualStudioCodeを使い効率よくコーディングを行う。ペライチの簡単なホームページを作成できるようにする。レスポンスのメディアクエリーの指定が適切に行える。	1 前	90	3		○		○			○	
24		○	Webデザイン I	VisualStudioCodeを使い効率よくコーディングを行う。 XDを使用してデザインカンプを作成し、それに伴ってコーディングしてサイトを作成できるようにする。	1 後	90	3		○		○			○	
25		○	Illustrator基礎	Illustratorの基本機能について操作ができるように基本的な事項について説明する。Illustratorクリエイター能力認定試験のスタンダードに合格を目指す。	1 前	90	3		○		○			○	
26		○	Photoshop基礎	Web制作上欠かせない写真データ加工の基礎（画像の移動、複製、消去、文字入力、）から色調補正、画像修正、切り抜き合成までを習得し、視覚効果にすぐれた魅力的なイメージ画像の制作までをPhotoshopを使って、演習を中心に行う。	1 後	90	3		○		○			○	
27		○	デザイン論	デザインの本質と歴史、そして様々なデザイン理論について学びます。具体的なデザイン技法やソフトウェアの使い方を学ぶのではなく、デザインを多角的に理解し、論理的に思考する力を養うことを目的としています。	1 後	90	3	○			○			○	
28		○	動画制作基礎	動画制作の基本的な知識と技術を学び、短尺の動画作品を制作します。動画の企画、撮影、編集、音響など、動画制作に必要な一連の流れを学び、実際に制作を通してスキルを磨きます。	1 前	90	3		○		○			○	
29		○	インターンシップ	企業の実際の現場で働き、自分の適性を確認しながら実務力とビジネスマナーを身につける実践型の授業	1 後	30	1			○		○			
30	○		PBL入門	生徒が自ら問題を見つけ、さらにその問題を自ら解決する能力を身に付ける学習を通じて、ヒューマンスキルの向上をはかる。	2 前	60	2		○		○	○		○	○
31	○		PBL	生徒が自ら問題を見つけ、さらにその問題を自ら解決する能力を身に付ける学習を通じて、ヒューマンスキルの向上をはかる。	2 後	90	3		○		○	○		○	○
32	○		アントレプレナーシップ演習	起業家精神に関する基礎知識を幅広く学習し、ビジネスを始めるための基礎知識や、アイデアの見つけ方、ビジネスプランの考案を学習し、アントレプレナーシップ演習で行うビジネスアイデアコンテスト応募につなげる。	2 前	60	2		○		○			○	○
33	○		データマーケティング	マーケティングの基本とデータ分析技法について学習する。地域経済分析システム「RESAS」の活用と地域の小売り店舗でのフィールドワークでの実例分析をおこなう。	2 前	90	3		○		○			○	
34	○		ビジネススキル	社会人として働くうえで必須となるビジネスマナー、コミュニケーション力、業務遂行能力を基礎から身につける授業	2 後	60	2		○		○			○	

35	○		CMS演習	WordPressなどのCMSを活用して、プログラミングの高度な知識がなくてもWebサイトを構築・運用・管理する実践スキルを身につける授業	2 後	60	2		○		○		○				
36		○	情報処理概論Ⅲ	情報社会の基礎知識を習得し、ネットワークやセキュリティ等の基本概念を学ぶ。IT人材として求められる広範なIT知識を身につけることを目的とする。情報検定の情報活用試験の合格を目指し、実践的な知識の習得を図る。	2 前	60	2				○		○				
37		○	業務自動化演習Ⅰ	事務作業を自動化・効率化する手法を学ぶ。特定の業務に特化せず、幅広い自動化の手法を経験し業務改善の可能性を理解する。企業の現場で活用できるスキルを習得し、実際の業務課題を解決できる力を養う。	2 前	60	2	○			○		○				
38		○	業務自動化演習Ⅱ	事務作業を自動化・効率化する手法を学ぶ。特定の業務に特化せず、幅広い自動化の手法を経験し業務改善の可能性を理解する。企業の現場で活用できるスキルを習得し、実際の業務課題を解決できる力を養う。	2 後	60	2		○		○		○				
39		○	ローコード実習Ⅰ	クラウド上でのWebアプリケーションやモバイルアプリ開発にローコードので開発が出来るようにするために、ローコードツールの使い方を学習し、プログラミングなしで、課題解決が短期でできるスキルを身につける。	2 前	60	2		○		○		○				
40		○	ローコード実習Ⅱ	ローコードツール基礎の習得を前提に、Webアプリケーションやモバイルアプリの実装にむけて、ローコードツールで開発し、テストやバグの確認の工程を進めアプリの公開にむけた実装ができるレベルを目指す。	2 後	60	2		○		○		○				
41		○	システム演習Ⅰ	WindowsOSの基本構造や管理方法を学び、企業のIT環境で求められる運用スキルを習得する。ユーザー管理、ネットワーク設定、セキュリティ対策、PowerShellによる自動化などを実機演習を通じて実践し、IT人材としての基礎を身につける。	2 前	60	2		○		○		○				
42		○	システム演習Ⅱ	企業のITインフラを安全に運用するために、ネットワークの基礎とセキュリティ対策を学ぶ。IPアドレス管理、VPN、ファイアウォール、無線LAN設定などの実践的なネットワーク管理に加え、脆弱性対策やログ監視を通じてセキュリティの重要性を理解する。	2 後	60	2		○		○		○				
43		○	データ分析演習Ⅰ	データの収集、前処理、統計的手法、データの可視化、データから有益な情報を引き出し、実際の問題解決に応用する力、意思決定に役立てる力を養う。	2 前	30	1		○		○		○				
44		○	データ分析演習Ⅱ	データの収集、前処理、統計的手法、データの可視化、データから有益な情報を引き出し、実際の問題解決に応用する力、意思決定に役立てる力を養う。	2 後	60	2		○		○		○				
45		○	色彩概論Ⅱ	色の基本的な特性等を理解し、配色を効果的にすることで、心理的、生理的影響の知識を身につけ配色調和のバランスをとることができる。	2 前	60	2	○			○				○		
46		○	WebデザインⅡ	JavaScriptやPHPなどを使用して高度なWebサイトを制作することができる。	2 前	90	3		○		○		○				

47		○	WebデザインⅢ	JavaScriptやPHPなどを使用して高度なWebサイトを制作することができる。	2 後	90	3		○		○		○		
48		○	デザイン演習	IllustratorやPhotoshopを使用して、Tシャツデザインコンテストなどのコンペに応募するための作品を制作していく。	2 前	90	3		○		○			○	
49		○	動画企画演習Ⅰ	PremiereProやAfterEffectなどの動画編集ソフトを使用して、アニメーション制作や動画制作を行う。	2 前	90	3		○		○			○	
50		○	動画企画演習Ⅱ	PremiereProやAfterEffectなどの動画編集ソフトを使用して、アニメーション制作や動画制作を行う。	2 後	90	3		○		○			○	
合計					50	科目	99 単位時間								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
学則より 卒業要件： a. 各学科の定める教科科目のうち、必修科目、選択必修科目の成績評価がすべて可以上であり、卒業必要単位数を修得している。 b. 全ての学費、教材費等が納められていること。 必修科目62単位		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 履修方法は講義、演習		1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。